

第 30 回 公物管理等分科会における審議の結果報告 別表フォローアップに係るヒアリングについて

平成 28 年 1 月 27 日に開催した第 30 回公物管理等分科会で下記の事業についてヒアリングを行った。概要は、以下のとおりである。

I ヒアリング対象事業（別表フォローアップ）

「JAXA 財務・管理系及び共通インフラ系情報システムに係る運用管理業務」（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）

1. ヒアリングの内容等

公共サービス改革基本方針別表において「民間競争入札の実施について引き続き検討し、平成 27 年度末までに結論を得る」こととされている本件ヒアリング対象事業について、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）から、調達競争性改善のための取組や、28 年度に調達実施予定である次期業務の内容等について説明がなされた。説明を受けて、委員からは、以下のような意見等が寄せられた。

【委員からの主な意見等】

- (1) 事業者側への情報発信を十分に対応しているとのことであるが、平成 19 年度及び 24 年度に行われたいずれの調達においても不落随契となっている。第三者の視点からは、仕様書等における業務内容の情報発信が十分でないのではないかという印象を受ける。
- (2) 次期調達結果を見た上で、次々期についての方向性を判断したいとのことであるが、単純に複数者応札が実現するのみでは十分でなく、それらの者によって 予定価格範囲内で競争が働くところまで確認できなければ、JAXA における取組が十分であるとは判断できない。
- (3) 次期から体制が変わるとのことであり、今後の各業務の予算額をどのように設定するか難しい印象を受ける。現行の運用管理業務から切り出す部分の費用を適切に見積ることができれば、次期調達時において不落随契となることを避けられるのではないかと。

2. ヒアリングを受けた今後の対応方針

本件事業については、調達時の競争性改善の余地が残されているものと思料された一方、次期事業から体制が大きく変わる予定であること及び JAXA の意向を踏まえ、民間競争入札導入の判断は、平成 28 年 12 月を目途に明らかとなる次期調達結果を確認の上で結論付けることとした。

よって、次期調達において、競争性の改善（予定価格範囲内での複数者による競争等）が確

認できない場合には、次々期事業（平成 32 年度開始予定）から、民間競争入札を実施することとする。

3. ヒアリングの結果

当該事業について監理委員会が引き続き状況確認を行い、基本方針別表には、平成 28 年度に実施する次回入札の結果を踏まえて民間競争入札の実施について引き続き検討し、平成 29 年度中に結論を得る旨を記載する。

以 上